

## II 四国の現況

### 1. 人口

#### 1.1. 人口総数

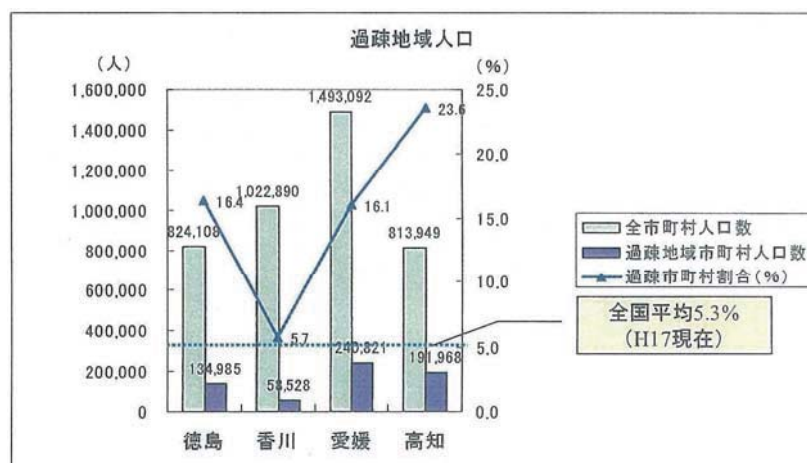
四国の総人口は、2005年国勢調査によると408.6万人で、2000年に比べ6万8千人減少している。総人口の値は、1985年に422.7万人でピークを迎え、全国に比べて20年早く減少が始まり、現在は漸減傾向にある。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、今後、人口は加速度的に減少し、2025年にはピーク値の約83%、351.4万人になると予想されている。四国の人口シェアは、1960年には4.4%であったが、1980年には3.6%、2005年には3.2%と継続して低下している。

#### 1.2. 高齢化

2005年国勢調査によると、高齢化人口率（65歳以上）は24.3%で、全国の値20.1%を上回っている。1990年には15.8%、2000年には21.8%と上昇しており、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2030年には35.7%に達すると予想されている。

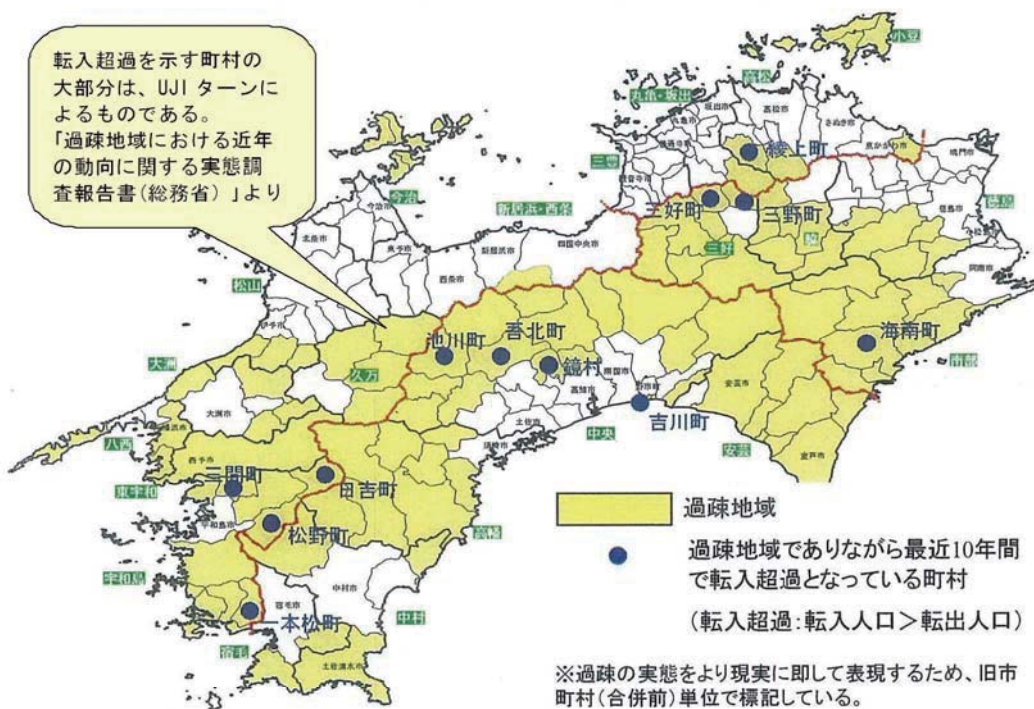
#### 1.3. 過疎化

図-1.3.1に示すように、平成17年現在の過疎地域市町村人口は四国の全人口の15.1%で、全国平均の5.3%を大きく上回っている。図-1.3.2は、平成17年2月現在における過疎地域を旧市町村単位で示したものであり、過疎市町村の大部分は、四国山地と西南部、東南部の半島地域に分布していることがわかる。しかし、過疎地域でありながら、最近10年間に転入超過となっている町村もあり、各々の取り組みによっては地域活性化を図ることができると考えられる。



資料：都道府県別過疎地域市町村の状況(2002年)  
人口統計資料(2004年版)

図-1.3.1 過疎化の状況（その1）



【過疎地域の要件】 資料: 総務省自治行政局 過疎地域市町村等一覧(H17.2.1現在)

人口要件

- ・昭和35年(40年)から平成7年(12年)までの35年間の人口減少率
  - A 人口減少率が30%以上
  - B 人口減少率が25%以上で、平成7年(12年)の高齢者比率が24%以上
  - C 人口減少率が25%以上で、平成7年(12年)の若年者比率が15%以下

財政要件

- ・平成8年度(10年度)から平成10年度(12年度)の3か年平均の財政力指数が0.42以下

図-1.3.2 過疎化の状況(その2)